

平成30年(2018年)

札幌管区气象台 気象防災部  
地球環境・海洋課  
(2018年3月1日)

# 北海道地方 2月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比			降雪の 深さ合計 cm	月最深 積雪 cm
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %		
稚内	-5.3	75.0	55.9	-0.6	124	70	103	68
北見枝幸	-6.7	50.5	99.1	-0.7	92	91	122	131
羽幌	-5.1	76.5	67.3	-0.6	96	82	108	124
雄武	-7.6	52.0	117.0	-1.0	171	97	97	69
留萌	-5.0	73.5	63.8	-0.9	105	88	129	135
旭川	-7.7	61.5	96.1	-1.2	120	91	104	87
網走	-6.8	33.0	155.8	-0.8	92	112	55	63
小樽	-4.2	74.0	87.6	-1.3	70	112	106	134
札幌	-4.2	43.0	115.3	-1.1	46	111	78	80
岩見沢	-5.9	87.5	131.2	-0.9	105	116	151	132
帯広	-7.1	20.0	195.5	-0.9	80	103	41	68
釧路	-4.8	12.5	198.5	-0.1	55	109	28	10
根室	-4.1	32.0	186.3	+0.2	142	113	51	28
寿都	-3.3	85.0	28.0	-1.2	109	60	140	107
室蘭	-2.6	46.5	113.5	-0.7	108	93	57	29
苫小牧	-4.3	31.0	159.8	-0.9	92	113	43	37
浦河	-3.1	45.5	131.5	-0.7	186	81	62	19
江差	-1.6	95.5	41.0	-1.1	162	69	92	51
函館	-3.2	108.5	98.3	-1.1	183	82	143	82
倶知安	-6.1	153.0	70.8	-0.9	115	108	202	222
紋別	-6.6	46.0	122.7	-0.7	151	102	96	61
広尾	-4.4	57.0	151.4	-0.1	107	94	92	94

## 階級分布図



注)「)」付きの値は欠測を含む。「)」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級	降雪量	階級
北海道22地点平均	-0.8	低	114	多	95	並	96	並
日本海側10地点平均	-1.0	低	105	並	91	少	82	少
ホーツク海側4地点平均	-0.8	並	127	多	101	並	91	並
太平洋側8地点平均	-0.5	並	119	多	99	並	116	多

## 月統計値の記録 (第3位まで)

(詳細は、最終ページの表を参照してください。)

降雪の深さ月合計値 (多い) 第3位 函館

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

— 『低温・多雨（並雪）・並照』 幌加内の積雪深、道内記録を48年ぶりに塗り替える —

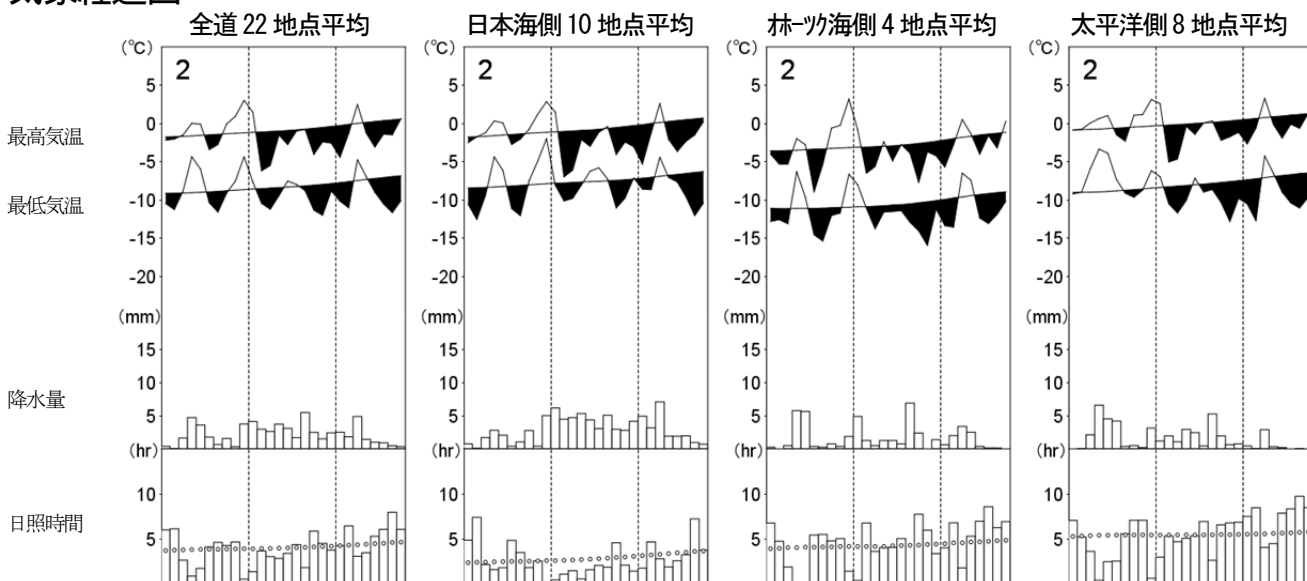
この期間の天気は、上旬は太平洋側を中心に低気圧や気圧の谷の影響を受けて雪や雨の降った日が多く、5日は大雪となった所もあった。中旬と下旬は冬型の気圧配置や低気圧の影響で雪の降った日が多く、17日と23～24日は発達した低気圧の影響で大荒れの天気となった所もあった。また、積雪の深さが平年を大きく上回った所では交通障害等が発生した。幌加内町幌加内では最深積雪が324cmに達して、1970年に倶知安で記録した北海道内の観測史上1位の値(312cm)を更新した。気温は中旬と下旬は平年より低く、月平均気温も低かった。降水量は上旬と中旬は平年より多く、月降水量も多かった。日照時間は中旬は平年よりかなり少なかったが、下旬は多く、月間日照時間は平年並だった。降雪量は中旬は平年より多かったが、下旬は少なく、月降雪量は平年並だった。なお、1961年の統計開始以降、上旬の日本海側の降雪量は最も少なかった。

上旬:1～2日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、1日は日本海側で雪の降った所があった。3日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、低気圧が接近して日本海側南部や太平洋側西部で雪の降った所があった。4～5日は低気圧や気圧の谷の影響で雪の降った所が多く、5日は大雪となった所もあった。日降雪量は中頃別で52cmなど。6日は低気圧や気圧の谷の影響によりオホーツク海側南部や太平洋側で雪の降った所が多かったが、日本海側やオホーツク海側北部では概ね晴れた。7日は気圧の谷の通過とその後の冬型の気圧配置により雪の降った所があったが、晴れた所も多かった。8日は冬型の気圧配置となって日本海側を中心に雪の降った所が多かったが、オホーツク海側や太平洋側では晴れた所が多かった。9日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側南部や太平洋側では概ね晴れたが、日本海側では寒気の影響で雪の降った所があった。10日は低気圧や気圧の谷の影響で日本海側や太平洋側西部を中心に雪や雨の降った所が多かった。

中旬:11日は低気圧や気圧の谷の影響により広い範囲で雪が降った。12～13日は冬型の気圧配置となって日本海側で雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部を中心に晴れた。14日は冬型の気圧配置や低気圧の影響により日本海側や太平洋側西部で雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた。15日は低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置により広い範囲で雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた所も多かった。16日は冬型の気圧配置となって日本海側で雪が降ったが、オホーツク海側や太平洋側では晴れた所が多かった。17日は発達した低気圧が通過して全道的に雪が降り、大荒れの天気となった所もあった。18日は気圧の谷や冬型の気圧配置により雪の降った所があったが、晴れた所も多かった。19～20日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側北部で雪が降ったが、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた所が多かった。

下旬:21日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側北部で雪が降ったが、太平洋側では晴れた所が多かった。22日は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、寒気や気圧の谷の接近により日本海側を中心に雪の降った所もあった。23日は発達した低気圧の影響により広い範囲で雪が降り、大荒れの天気となった所もあった。24日は低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置により日本海側を中心に雪が降り、大荒れの天気となった所もあったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた。25～26日は冬型の気圧配置となって日本海側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側や太平洋側では概ね晴れた。27日は冬型の気圧配置が緩んで広い範囲で晴れたが、気圧の谷の影響により日本海側では雪の降った所があった。28日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、日本海側では雪の降った所があった。

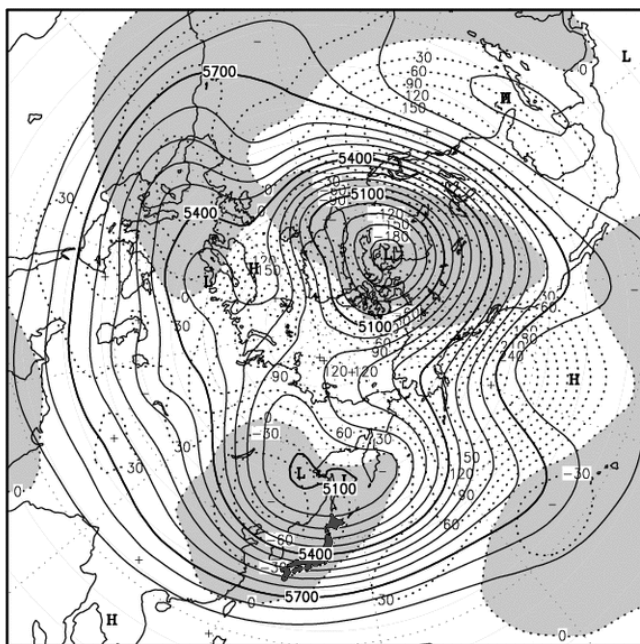
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差(°C)、降水量と日照時間は平年比(%)を示す)

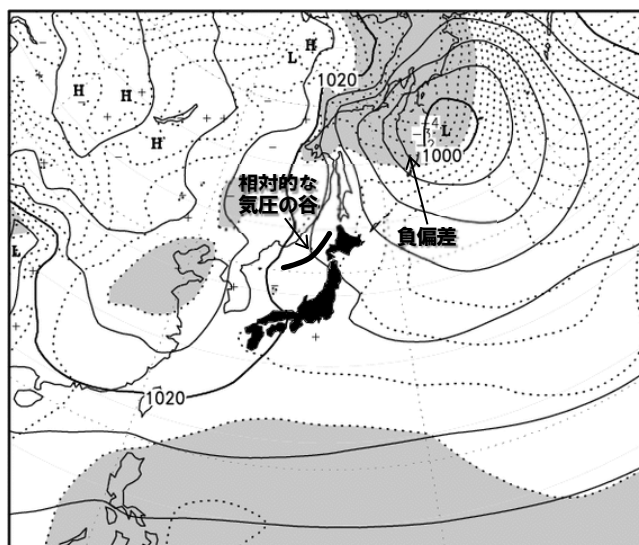
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	+0.7 並	-1.4 低	-1.9 低	+0.5 並	-1.5 低	-2.2 低	+0.2 並	-1.2 低	-1.5 低	+1.3 高	-1.2 低	-1.8 低
降水	149 多	145 多	68 並	69 少	148 か多	100 並	168 多	149 多	75 並	238 か多	139 多	25 少
日照	98 並	77 か少	115 多	120 多	56 か少	100 並	85 並	95 並	124 多	78 か少	94 少	129 多

## 2月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



2月の500hPa天気図

実線：等高線（m）、点線：高度の年平均偏差（m）  
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。  
 日本の上空では、風は等高線に沿って西から東に吹いている。等高線が南北に波打っている状態は偏西風が蛇行していることを、等高線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



2月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の年平均偏差（hPa）  
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

### ・500hPa（上空約5500m）天気図

大陸東岸で負偏差が明瞭となって、偏西風は大きく南に蛇行し、東日本以西には強い寒気が流入したが、北海道への影響は小さかった。

### ・地上天気図

北海道の南西海上が相対的な気圧の谷となっており、この付近に低気圧が停滞する時期があった。また、カムチャツカ半島付近が負偏差となっており、低気圧が停滞して冬型の気圧配置が続く時期もあった。

## 北海道上空の気温経過

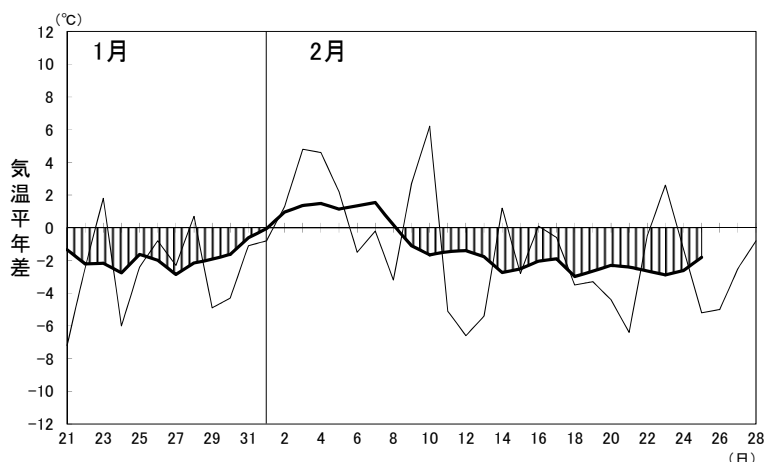
### 2月の札幌における850hPaの気温年差

#### ・7日移動平均（太線）

上旬は概ね平年を上回ったが、中旬以降は下回った。

#### ・日別値（細線）

上旬は平年を大きく上回る日が現れたが、中旬以降は平年を下回る日が多く、大きく下回る日も度々現れた。



1月下旬から2月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温年差  
 （細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差）

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
2月	降雪の深さ月合計値 (多い)	第3位	函館	143cm	159 %	168 (2012)	1953

お問い合わせ先

札幌管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課  
TEL (011) 611-6174